



令和五年に希望を託して

理事長 森 勉

令和四年が暮れ行く中、コロナウイルスのパンデミックは未だに収束せず、ロシアのウクライナ侵攻は長期化の様相を呈し世界経済が減速・不安定化し、紛争が地球規模で拡大することが懸念されています。特に核保有国が核の恫喝を伴う通常戦力で核を持たない国を侵略した場合、友好国状況によつては同盟国であっても情報の提供、武器・弾薬の補給等間接的な支援は出来ても連合作戦等の直接的な軍事行動は困難であるという厳しい現実面に直面しています。

二十世紀中葉、植民地支配を拡大した帝国主義の米・英・仏等の連合国(民主主義)と日・独・伊の枢軸国(ファシズム?)との覇権争いは第二次世界大戦で広島・長崎への原爆投下という人類史上最悪のジェノサイドで終焉しました。戦後の資本主義と共産主義のイデオロギー対立の冷戦はソ連邦の内部崩壊で熱い戦いを行うことなく鉄のカーテンは消滅しました。ポスト冷戦では平和への願いに反し、民族・宗教・文化の対立、国境問題、テロ等により紛争が多発していますが、ロシアのウクライナ侵攻により核使用の脅威下民主主義国家と専制・

独裁国家の対立という新たな戦略構造へ変化しています。

隣国の韓国は文化交流を含め国交が限られていた時代「近くて遠い国」と呼ばれていました。東アジアの国々は同じ東洋人であり、二千年に渡る交流があり、長きに渡り漢字文化圏(半島の国はハングル文字を使用していますが)に属しているのが相互理解が容易な事は自明の理である思っていますがロシアを含む東アジアの国々とわが国の価値観・道徳・習慣等には大きな隔たりがあり正に「近くて遠い国」であるという事実を率直に受け入れなければなりません。

敗戦直後の主権のない時期に制定された日本国憲法は、独立を果たし、東京オリンピックをアジアで初めて開催し、世界第二位の経済大国に復興し、七十年以上の歳月が流れても自らの憲法の制定はおろか改正すらされていません。特に憲法九条の非武装平和主義に基づき軍隊ではない自衛隊と日米同盟で国を守るというおとぎ話のようなわが国の虚構の戦後社会は価値観等が大きく異なり核を保有する専制・独裁国家と一衣帯水の三正面で国境を接する世界で最も厳しい戦略環境に晒されています。令和五年はパンデミックが終息し、ウクライナがロシアに勝利し、民族の誇りを失ったわが国の虚構の戦後社会が少しでも夢幻から目覚めることを期待しています。